

Loss of Heterozygosity of PTEN (Encoding Phosphate and Tensin Homolog) Associated with Elevated HER2 Expression Is an Adverse Prognostic Indicator in Gastric Cancer

財津, 瑛子

<https://hdl.handle.net/2324/1500561>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



(別紙様式2)

氏 名	財津 瑛子			
論 文 名	Loss of Heterozygosity of PTEN (Encoding Phosphate and Tensin Homolog) Associated with Elevated HER2 Expression Is an Adverse Prognostic Indicator in Gastric Cancer			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	鈴木 聡
	副 査	九州大学	教授	田中 雅夫
	副 査	九州大学	教授	中西 洋一

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

PTEN の発現低下はアポトーシスの抑制や薬物療法抵抗性を誘導し、多くのヒト悪性疾患で PTEN の異常が報告されているものの、胃癌との関係については不明な点が多い。本研究では胃癌 221 例を対象とし、PTEN の loss of heterozygosity (LOH)、リン酸化 AKT、HER2 発現量、及び予後や臨床病理学的因子との相関を検討した。

PTEN の LOH は 20% の症例に観察され、PTEN の LOH を有する症例は、リン酸化 AKT が高値であるとともに、HER2 の発現も高い例が多く、腫瘍による脈管侵襲とも有意に相関した。5 年生存率では、HER2 の発現上昇があり、かつ PTEN の LOH を認める症例が、HER2 の発現上昇のみを認める症例より予後不良であった。胃癌においては HER2 の発現上昇単独では予後因子とはならなかったが、HER2 の発現に PTEN の LOH が併存することにより予後不良になることが示唆された。

以上の成績は Oncology 誌に掲載され、この方面の研究にインパクトを与えた意義ある成果であると考えられる。

本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったところ、満足すべき回答を得た。

以上のことから、調査委員合議の結果、試験は合格であると判断した。